

## 「北九州市部活の未来を考える会」の意見の取りまとめ

北九州市教育委員会  
令和5年12月15日

### 1 はじめに

生徒がスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を将来にわたって確保することを目的とし、学校部活動から地域クラブ活動への移行に向けて、有識者等から幅広く意見を聴取するため、これまで5回の会議を開催してきた。

本取りまとめは、現時点における、「北九州市部活の未来を考える会」の意見をまとめたものである。

### 2 現状と課題

学校部活動は、スポーツ・文化芸術に興味・関心のある同好の生徒が自主的・自発的に参加し、各部活動の責任者の指導の下、学校教育の一環として行われ、教師の献身的な支援により、我が国のスポーツ・文化芸術振興を担ってきた。また、体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図り、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、学校という環境における生徒の自主的で多様な学びの場として、教育的意義を有してきた。

しかし、本市においても少子化が進行する中、中学校の生徒数が減少し、「生徒が活動を選択できない」、「大会参加が困難な状況にある」など単一校では部活動の運営が困難な状況が生じている。また、学校が小規模化の傾向にあるため、教員数も減少しており、競技経験のある教員が必ずしも配置されているわけではないことなど、指導者の確保が困難な状況も生じている。

そして、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革（令和2年9月文部科学省）」では、教員の働き方改革の方向性として、「部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であること」、「休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に部活動の指導に携わる必要がない環境を構築すること」が示されている。また、教員の勤務時間は長時間化しており、教員を対象に実施したアンケート調査では、6割以上の教員が「報酬が支払われても指導したくない」との結果が出ている。

以上のことから、学校部活動は、今後、ますます活動が困難な状況となる可能性がある。

### 3 北九州市における部活動の望ましい姿（北九州市部活動の目標）

（北九州市部活動の在り方に関する総合的なガイドラインより）

- ・ より多くの生徒が入ることのできる部活動
- ・ 指導者が余裕と意欲をもって指導できる部活動

という観点から部活動指導及び運営の充実を図り、生徒の健全な心と体を育むことを目標とする。

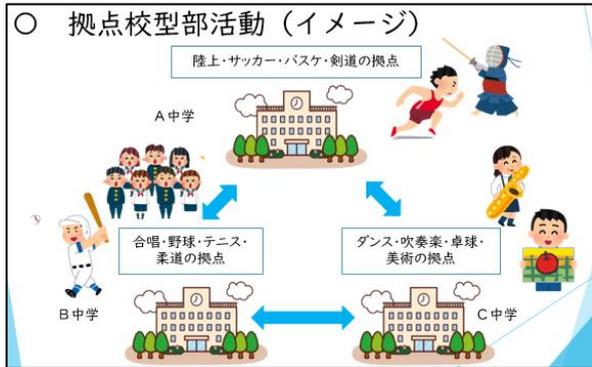
「北九州市部活の未来を考える会」では、これらの観点から、持続可能な部活動のあり方について協議してきた。

## 4 改革の方向性

### (1) 拠点校型（エリア型）部活動の導入

○ 拠点校型（エリア型）部活動を導入し、北九州市立中学校の部活動数及び規模を適正化する。

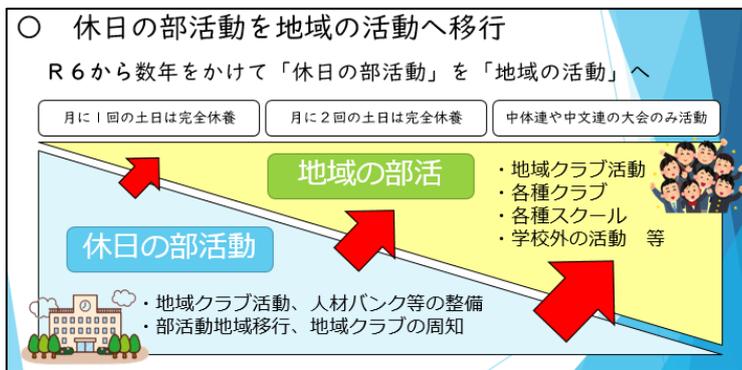
- ・ 複数校で部活動を運営する等、拠点校型（エリア型）部活動に整備
- ・ 拠点校型（エリア型）部活動に整備しつつ、地域移行・地域連携を模索
- ・ 令和6年度にモデルとして実証を行い、3年を目途に全市へ拡充



### (2) 休日の学校部活動を地域クラブ等へ移行

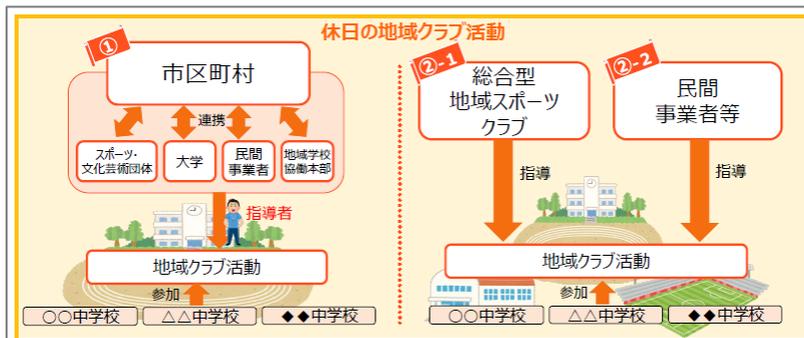
○ 休日の部活動を段階的に地域クラブ等へ移行する。

- ・ 地域移行については、まずは休日から開始
- ・ 3年を目途に段階的に地域の活動へと移行
- ・ 最終的には、学校部活動から地域クラブ活動等に移行



※ 地域クラブ活動イメージ図

(学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドラインより)

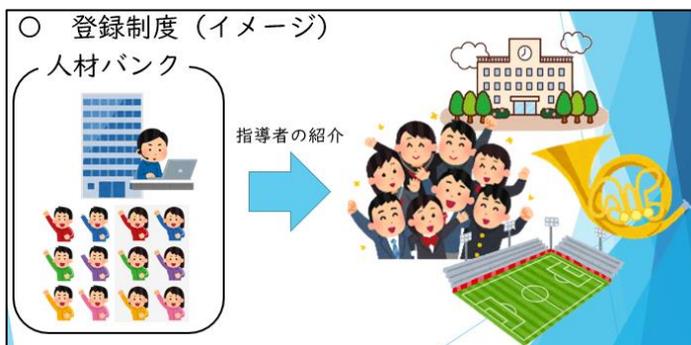


### (3) 各種制度を整備

- 「人材バンク」、「地域クラブ登録制度」等の制度設計を行うとともに、現行の制度についても再整備する。

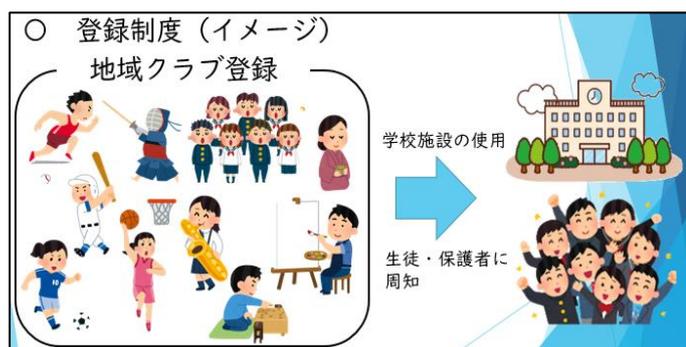
#### ① 指導者登録制度の整備

- ・ 登録型「人材バンク」を整備
- ・ 学校部活動や地域クラブ活動等に対応
- ・ 指導者の量を確保するとともに、質も担保



#### ② 団体登録制度の整備

- ・ 「地域クラブ活動」に該当する団体の登録制度を整備
- ・ 受け皿となる団体を確保するとともに、質も担保



#### ③ その他制度の整備

- ・ 「地域クラブ活動」による学校施設利用のあり方を検討
- ・ 「北九州市部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」の見直し

## 5 今後について

「北九州市部活の未来を考える会」の意見をもとに、今後、北九州市の部活動地域移行推進計画（仮）を策定する予定である。そのため、令和6年度も、引き続き「北九州市部活の未来を考える会」を開催し、意見を聴取する予定である。

また、部活動地域移行については、各モデル実践やパブリックコメント等を実施することで、北九州市の実態を把握し、適宜、修正を加えながら検討していく予定である。